

「個が生きる」生活科授業

—— 第2学年単元「学校のまわり」の実践を通して ——

吉 浦 公 子

1. 生活科における「個が生きる」とは

新学習指導要領において、生活科の目標及び内容が告示された。生活科の特色としては次の点が挙げられている。

- ア 具体的な活動や体験を通して学習する。
- イ 自分との関わりにおいて、身の回りの社会や自然をとらえていく。
- ウ 自分自身のことについて考え、自分自身に対する気付きを大切にする。
- エ 生活に必要な生活習慣や生活技能を身につけさせる。

生活科は、この様な特色の下に「自立への基礎を養う」こと、つまり、独り立ちできる子どもを目指しているといえる。

本校では、新指導要領の目標・内容を参考にしながら、これまで実践してきた、総合学習をもととし、小学校6か年を見通した生活科のあり方を考えてきた。本校で期待する子どもたちの具体的な活動としては、次のような姿を描いている。

- ① 自分の身のまわりの変化や様子やできごとに関心を持って生活できる。
- ② 目や手や体を使って、身のまわりの変化やできごとに関心を持って生活できる。
- ③ 見たり、感じたりしたことをよく考えて工夫しながら表現できる。
- ④ ともだちと支えあって、自分の役割を考えながら行動できる。

このことは、生活科においては、本校研究テーマである「個が生きる」そのものがねらいであり、内容につながるものであることを示している。

生活科において、「個が生きる」姿を考えると次のようなものが描かれる。

一人ひとりの児童が、自分との関わりの中で身の回りの社会や自然をとらえ、働きかけ、集団の中で他の児童と関わりながら、自分の考えや自分自身をみつめ、生きる力を自らの力でつかみとっていく。

この「個が生きる」姿をもとに、生活科授業づくりの重点事項として、児童の発達段階をふまえて、次の3点を考えた。

- ① 一人ひとりのめあて意識を大切に活動ができる。
- ② 一人ひとりの考えや思いが生きる表現活動を通して、集団との関わりをもつことができる。
- ③ 一人ひとりの表現活動を相互に受け止めながら、1年生（2年生）なりに自分の考えや自分自身を振り返り、見つめることができる。

教師の役割は、これらの場の設定と、各児童及び集団に対する指導・援助等の働きかけであると考えている。昨年度（第1年次）は、上記の①及び②を中心に集団の中に個の考えを出し合う（表現し合う）ことに重点を置いて実践研究をすすめてきた。第2年次の本年度は、前年度をふまえながら、②及び③を中心として、生活科の学習活動として重視されている表現活動に焦点をあてて授業づくりを考えていく。具体的には、以下のような場を重視した単元及び授業構成をすすめていく。

- 対象についての新たな気づきを、一人ひとりが十分表現することができる場
- 集団との関わりの中で、一人ひとりの表現力がより高められる場

次に示すのは、その授業づくりの実際である。

2. 第2学年 単元「学校のまわり」

(1) 単元について

本校は、通学区域が広く、学校から離れたところに住んでいる児童が多い。また、本校のある地域の子供会等の行事に参加する機会が少ないことから、東雲町に住む人々に対して、なかなかなじめないようである。しかし、児童の毎日の生活を見ると、学校周辺にすむ人々と、消費面や通学の安全など多くの場において、関わりを持っていることは事実である。本単元では、小学校6年間の生活の場である学校のまわりを、児童一人ひとりが自分の力で調べる活動を通して、学校をとりまく自然や人々、施設などと自分たちの関わりに気付かせていくことをねらったものである。

(2) 指導目標

- ① 学校のまわりの建物や店、自然、人々と自分との関わりが分かり、生活空間を広げられるようにする。
- ② 学校のまわりを調べたり、みつけたものを絵や文などに表すことができるようにする。
- ③ みつけたものを、進んで人に話したり、認め合いながら聞くことができるようにする。

(3) 指導計画

第一次 学校のまわりをたんけんしよう（4時間）

第二次 たんけんちずを作ろう（5時間）

第三次 たんけんはっぴょう会をしよう（2時間）

(4) 指導の実際

○第一次 第1時

（一人ひとりがめあてをもつ場）

本単元前の、児童にとっての学校のまわりは、ほとんど次の範囲内に限られていた。つまり、既習単元「こうえん（東雲第二公園）へ いこう」における公園と学校を結ぶ道と、各自の通学路である。すでに、「こうえんへいこう」の単元において、公園へいくまでのまわりの様子に、関心を示した児童もみられる。

第一次 第1時では、各児童が学校のまわりについて探検したいことを決め、グループ作りを行った。グループ作りにあたっては、一人ひとりの興味の方向を重視するため、探検したいもののテーマ別とした。探検したいものの別のグループは次の通りである。

- ① テレホンカードでんわたんけんたい
 - ・テレホンカードでつかえるでんわとつかえないでんわがあるところ
- ② お花たんけんたい
 - ・道のそばにあるきれいな草花しらべ
- ③ ラーメンやさんたんけんたい
 - ・おいしいラーメンやさんのあるところ
- ④ おかしやさんたんけんたい
 - ・くじつきのおかしがたくさんあるおかしやさんのばしょ
- ⑤ きけんたんけんたい
 - ・学校のまわりのきけんなところしらべ
- ⑥ においたんけんたい
 - ・よいにおいのするところとくさいにおいのするところ
- ⑦ 犬たんけんたい
 - ・犬を飼っている家とこわい犬しらべ
- ⑧ あそびばたんけんたい
 - ・みんなの知らないあそびばしらべ
- ⑨ じどうはんばいきたんけんたい
 - ・じどうはんばいきのあるところとおもしろいじどうはんばいきしらべ

○第一次 第2・3・4時

(一人ひとりのめあてが生きる追求活動の場)

グループ作りの後、実際の探検活動に入った。この活動では、次の点を留意してすすめた。

ア 一人ひとりの持つめあてが生きる追求活動であること

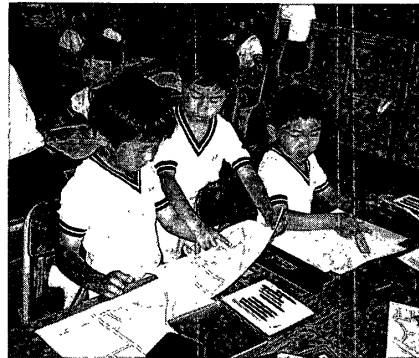
イ 活動の中で、友だちと関わりながら活動を深めて行くことができること

ウ 担任の教師が無理なく安全に指導できること

以下は、児童の活動の実際である。

①大まかなコースを決定する。(第一次 第2時)

児童と共にまずコースを決めるために新たな道を歩いてみる「みちたんけん」を行う。この活動は、「右へ行こう。」「まがってみたい。」などという児童の希望をもとにおこなう散歩のようなものである。その後教室で、探検のコースを話し合いで決定した。この道は、通学路と公園への道が記されている簡単な白地図に記入した。これは、個人用の地図として活用した。



「みちたんけん」の後、「たんけんちず」を見ながら探検のコースを話し合う。

② グループ毎に探検方法を話し合う。

各グループごとにたんけんの方法を話し合う時間をとった。次に示すのは、その一例である。

<お花たんけんたい>

・花をカメラで写す。

<ラーメンやさんたんけんたい>

・カセットテープレコーダをつかって、「このお店のラーメンは、おいしいですか?」

「一番人気のあるラーメンは何ですか?」とインタビューする。

<においたんけんたい>

・蓋の開まる瓶や空かんをもって行って匂いを集める。

<犬たんけんたい>

・犬をかっている家の人に、吠えるかどうか、どうやったら喜ぶか聞いて試してみる。

③ たんけんたいバッジを作る。

これは児童から要望があったもので、「旗は探検の時じゃまになる。」という意見で、探検グループ毎のバッジとした。これは、厚紙にたんけんたいのマークを描いて切り抜き、裏に安全ピンをつけた簡単なものである。

④ 学校のまわりを探検する。(第一次 第3・4時) 児童が立てた計画に基づき、コースにしたがって、各グループの探検を行う。各グループの自由な活動を保障することと、安全面を重視することを考慮して次のように行ってみた。

(ア) 児童と決めたコースをいくつかの範囲で区切る。

(イ) 一つの範囲内においてグループ毎の自由な探検をする。

(ウ) その範囲の探検が終了すると次の範囲に全員で移動する。

児童は自分たちのグループで考えた方法(花を写真に撮る・テープレコーダを使い、店の人にインタビューをする・匂いを瓶につめる等)によって学校のまわりの探検を行った。



<お花たんけんたい>
きれいな花を写真に撮る。

児童の主体的な活動という観点からは、すべてグループの児童にまかせ、自由に学校のまわりを探検させる方法の良さは言うまでもない。しかし、本実践で、学級全員が同じように道を歩きながら活動させる方法をあえて用いたのは、「個が生きる」と共に、学級担任が無理なく指導できることを考慮したものである。時には、学校全体や、他の教師に対して協力を仰ぐことも必要であるが、これからの息の長い生活科授業を目指すうえで、担任の力だけで指導できることも必要であると考えている。

本時においては、児童はそれぞれがめあてをもって計画した探検を行い、各グループが単独で活動したという意識を持つことができたように思われる。

○第二次 第1時

(見つけたことを個の発想を生かして表現する場)

学校のまわりを探検した後、見つけたことや考えたことを、絵や文等で表現したり、簡単な「たんけんちず」に位置づける活動を行った。ここでは、次のような場を設定して、学習をすすめた。①全員に自分なりの表現方法を考えさせ、グループ内で出し合う。

②各々の表現方法を認めながら、よりよい表現方法をグループ毎に考える。

「たんけんちず」は白ボール紙6枚をつなぎ合わせたもので児童の通学路・公園への道・探検コースのみが記されている。まだ歩いていない道については、そのまま空欄である。この白地図を教室前面にはり、各グループの探検の結果を表現させて行く。指導にあたっては、表現方法は、グループの自由な発想を認めると共に、第一次における探検活動での児童の対象への働きかけ・感じ方をふまえながら、多様な表現方法を示し、助言した。

○第二次 第2時

(学級集団の中で出し合い、認め合う場)

ここでは、前時に表現したものを学級のグループ相互で発表し合い、友だちの調べた結果に目を向けると共に、学校のまわりに対する関心を深めていく場とした。以下はその発表の一部である。

<においたんけんたい>

「ぼくたちは、においたんけんたいです。瓶や缶に匂いを集めようとしたんだけど、失敗したので、その素を集めて、同じ匂いを作りました。」

「ここは、パン工場があるので、パンのいい匂いがします。」(食パンの入ったビニール袋を示す。)

「ここは、うどんやさんです。こんな匂いがします。」(刻んだ葱の入った袋を見せる。)

「ここは喫茶店で、コーヒーの匂いがするから、コーヒーの豆を持ってきました。」

「このスイミングクラブの近くに行くと、消毒のカルキとか言う匂いがします。注射の時の消毒の綿と同じ様な匂いがするので、保健室の綿を先生から貰ってきました。」

(発表しながら、それぞれのビニール袋をみんなに渡して匂って貰う。他の児童は袋を回しながら、「いい匂い」「くさい」など感想を口ぐちに言い合っている。)



<たんけんたい>
犬を飼っている人に犬が喜ぶ方法を教えてもらう。



<ラーメンやさんたんけんたい>
おいしいラーメンを調べるために店に入る。



「たんけんちず」に見つけたことを書き込んだり、作ったものをはっていく。

<犬たんけんたい>

「ぼくたちは犬たんけんたいです。(地図の絵をさして) この家でかっている犬は、リキといいます。どうしたらリキが喜ぶかやってみます。」

(一人の児童が犬のまねをする。他の二人がそのしっぽの方を撫でる。犬の役をした児童が喜んで二人にじゃれかかる真似をする……。)

<ラーメンやさんたんけんたい>

「ぼくたちは、ラーメンやさんたんけんたいです。テープにお店のコマーシャルをとってきたので聞いて下さい。うまくとれなかったので、後で通訳します。」(テープを流す。)

<あそびばたんけんたい>

「ぼくたちはあそびばたんけんたいです。この道のおくに、東雲第三公園を見つけました。」(公園の模型を示す。)

「ここは、第二公園より遊具は少ないけど、広いので、みんなでおにごっこができそうです。」

この発表後、疑問や新たな興味関心が生まれてきた。それらを基に次の探検を計画し「たんけんちず」を、その結果に基づいて、修正したり、さらに書き加えたりしていった。

○第三次

(学級集団以外の人々に表現する場)

さらに、第三次において、学習のまとめとして、自分たちで見つけた広げた「学校のまわり」をおうちの人に伝える活動を計画した。今までの発表、地図上の表し方をみんなで検討し、人によりよくわかって貰うために準備や練習も行った。発表は、参観日を利用し、保護者の方から感想もいただいた。

(4) 結果と考察

実践における具体的な結果を通して、一人ひとりの表現活動が生かされ、集団との関わりの中でより高められたかという点について考えていく。

○ 見つけたことを個の発想を生かして表現する場(第二次・第1時)における各グループの地図上の表現方法は下の表の通りである。この表現方法に至るまでに、グループ内で全員が自分の考



<においたんけんたい>のビニール袋を保護者の方におしてもらう。

えた、表現方法を出し合う場を設定した。その際の各自の表現方法と、左に示す表現方法の変化について見ていく。

① 「カードでんわたんけんたい」

・使い終わったテレホンカードを、電話のあるところに貼る。黄・ピンクの電話は、色紙に電話の絵をかいて貼る。

② 「お花たんけんたい」

・花の写真を貼って説明を書き込む。

③ 「ラーメンやさんたんけんたい」

・どんぶり型の黄色のカードに店名と説明を書いて貼る。貰った割箸・マッチ箱・メニューの紙もその側に貼る。

④ 「おかしやさんたんけんたい」

・お菓子の空き箱にお店の説明を書いて貼る。

⑤ 「きけんたんけんたい」

・きけんなところに赤いカードを貼る。

② 「お花たんけんたい」

S 児 花の写真を貼る。

O 児 カードに絵と文で記入する。

K 児 花の絵を描く。

⑦ 「いぬたんけんたい」

Y 児 カードに絵と文で記入する。

N 児 犬を実際に教室に連れてきて紹介する。

I 児 飼っている人がしていたことの真似をしてみせる。

⑥「においたんけんたい」

- ・ビニール袋に匂いの素を入れて貼る。
パン工場→食パン、
うどん屋さん→刻んだ葱、
喫茶店→コーヒー豆、
プール（消毒の匂い）→保健室の消毒用の綿

⑦「いぬたんけんたい」

- ・犬の似顔絵と説明を書いたカードを貼る。

⑧「あそびばたんけんたい」

- ・空き箱を使って遊び場の模型を作り地図に貼る

⑨「じどうはんばいきたんけんたい」

- ・ジュース・ビールの空き缶やタバコの空き箱を販売機の位置に貼る。

表現を相互に発表し合う場において、児童は、同じ対象に対する気づきにおいても、他の児童と自分とは表現の仕方に違いがあることに気づいたようである。このことが、グループ内の各々の表現を高めることにつながったと考えられる。

また、各グループの表現活動をみると、前述の「お花たんけんたい」のように具体的な表現方法を第一次の探検活動の段階で、すでに考慮していたものが多いことに気づく。つまり、探検計画の段階から、児童たちには「探検して発見したことを何らかの形で教室に持ち帰りたい。」「みんなに見せたい。」という意識があったようである。そのために本単元における表現活動は、児童たちにとって単なる観察・調査活動のまとめとしてではなく、表現活動そのものが重要な活動となっていると考えられる。一人ひとりの表現活動を高めていく上で、単元の導入段階において、「探検をして〇〇に伝えよう」というめあて意識をもたせることによって、表現活動を見通した展開をはかる方がより有効ではなかったかという点について、さらに検討する必要があると思われる。

3. おわりに

特に低学年では、授業で「個が生きる」ために、一人ひとりが十分活動できると共に、集団の中で表現する・他の表現を見たり聞いたりできる力を養うことが重要であると考えられる。そのために本単元の構成にあたっては、個と集団との関わりの良さや楽しさができるだけ味わえるような場づくりを大切にされた。このことは、授業時間はもとより、学校生活における全ての活動の中で今後も考えていく必要がある。その一つの試みとして、本実践では、単元終了後も朝の会のニュースのコーナーなどで新しい発見について児童相互情報の交換をおこなうようにした。半年以上もたった現在も「たんけんちず」は、さらに広げられている。

今後は、本年度までの実践をふまえて、個と集団との関わりにおいて一人ひとりの学習活動を、より深め合いながら、「1年生（2年生）なりに自分の考えや自分自身を振り返り、見つめることができる」授業づくりに向けて実践研究をさらにすすめていきたい。

②は、各々の表現方法の良さを認めることにより、写真に説明をつけるというさらに分かりやすい表現方法となっている。

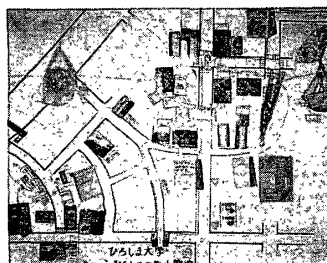


くお花たんけんたい
自分たちで
写した写真
に説明をつけ
ている。

⑦は、犬の喜ぶ方法をより具体的に示したいという児童の願いから、地図上の表現は犬の絵と説明を貼り、発表の際に動作化をするという表現方法に変わっている。



く犬たんけん
たい
「〇〇さんの
家のリキ（犬
の名前）は、
こうすると喜
びますよ。」



みんなで協力
して完成した
「たんけんち
ず」